

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2626 号

Clinicopathological characteristics of gastric adenocarcinoma with enteroblastic differentiation and gastric adenocarcinoma with enteroblastic marker expression

胎児消化管類似癌と胎児消化管マーカー発現を伴う胃腺癌の臨床病理学および分子病理学的特徴

阿部 大樹 (あべ だいき)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は胎児消化管上皮類似胃癌 (GAED) と胎児消化管マーカー発現を伴う胃腺癌の臨床病理学的特徴の違いを初めて明らかにした臨床的に意義のある論文である。

GAED は淡明な細胞質と胎児腸管類似構造、胎児消化管マーカー (EM) である  $\alpha$ -fetoprotein、glypican-3、spalt-like transcription factor 4 の発現を定義とし、脈管侵襲、リンパ節転移や肝転移を高率できたす高悪性度の特殊型胃癌とされるが、淡明な細胞質を伴わずに EM が発現している胃癌 (GA with EM) も一定数存在する。本研究では EM 陽性胃癌 (GAED と GA with EM) が淡明な細胞質の有無に関わらず包括できるか検討した。進行胃癌 688 例を対象とし、組織マイクロアレイを用いて EM 発現と淡明な細胞質の有無により GAED94 例 (13.7%)、GA with EM58 例 (8.4%)、通常型胃癌 (CGA) 536 例に分類した。GAED と GA with EM はともに、CGA と比較して脈管侵襲、リンパ節転移、肝転移の頻度が高かったが、静脈侵襲や肝転移率は GAED でより高く、リンパ管侵襲は GA with EM でより高かった。5 年全生存率は GAED46.6%、GA with EM47.9%、CGA58.2%であり、CGA の方が全生存率が高かった。GAED と GA with EM の全生存率はほぼ同じ傾向で、EM 陽性胃癌は CGA より全生存率で有意に予後不良であった ( $P=0.018$ )。また、腫瘍径は CGA よりも EM 陽性胃癌で小さい傾向があったが、静脈侵襲率および肝転移率は EM 陽性群で有意に高かった。以上から GAED と GA with EM は病理学的には若干異なるが、臨床的には高悪性度の一群として分類可能であると考えられた。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。